



### 巻頭言

## 雲上の村の開発

標高 2700 メートル、さらに 600 メートル登った尾根の山頂に立てば、エベレスト山が間近に見える、山奥の村。朝日に照らされた壮大なスケールの段々畑を見ながら、この秘境の村の可能性を考えました。1月に訪れたネパール、カク村です。



ネパール王国時代は、王の官吏も行きたがらなかったと言われる、その村には、首都カトマンドウからバスで 20 時間、さらに徒歩で 12 時間の険しい山道の旅でした。住宅の建材（トタン板）1 枚ですら背負って人力で運び込み、急病の患者もポーターと呼ばれる荷夫が病院のある郡都のサッレリまで運ぶ世界です。若い男性はほとんど、出稼ぎのために外に出、残されたのは、女性や子ども、お年寄りばかり。ミカンや菜の花が豊かに実りながら、働き手がなく放置された畑も多々見られます。病気で働き手を無くし貧困に喘ぐ家族、病気で母を亡くし、出稼ぎに行った父親に見捨てられた孤児、貧しい村の厳しい現実も見せられました。この村に農業の発展と教育の普及をと夢を描く協力者と一緒に、村を歩き回り、彼が村人を指導して収量の増したとい



う農地を一つ一つ確認しながら、農業開発および、私立学校設立のプロジェクトを検討しました。

カトマンドウに戻り、今度は、二つの施設を尋ねました。一つは、先のカク村のような貧しい農村の子どもを引き取り、学校教育を施し、子どもと家庭の生活自立を目指す施設です。もう一つは、先のカク村の例にもあげましたが、両親を亡くすなど、様々な理由で放浪した果て、都市に流れ着き路上生活するようになった子どもたちを受け入れ、共同生活をしながら、学校教育への復帰を目指す施設です。



日本の折り紙を用意し、折鶴を教えたところ、驚くほどの熱心さで取り組んでいる姿に、日本からの働き手が分かち合えることはたくさんあると思われました。続けて皆さんのご協力をよろしくお願いたします。  
(HFI 代表 福井誠)

### CONTENTS

- ネパール・プロジェクト  
現地訪問レポート …p.2
- モンゴル・プロジェクト  
CBR 研究続報 …p.3
- セブ・プロジェクト  
活動報告 …p.4
- ピース・ファンド  
支援の現場から …p.6
- 日光・鹿沼プロジェクト…p.8